

イサキ *Parapristipoma trilineatum*



和名の語源ははっきりしませんが、幼魚の背部には3本の黄褐色の縦縞があるため、県内の一部の地区ではウリボウ、リスと呼ばれます。昼は岩礁域の底層にいますが、夜は水面近くまで浮上します。高知県では主に定置網や釣で漁獲されます。刺身、塩焼、煮物、唐揚げなどで用いられて高級品とされます。年中美味とされますが、特に産卵期の5月後半から6月前半にかけて絶品です。

分布等

高知県では、室戸岬以東と宿毛湾に多くいますが、土佐湾には少ないようです。宿毛湾での標識放流調査の結果から、イサキは大規模な移動をしないと考えられています（高知県1992）。

成長

平成10年（1998年）5月～平成12年（2000年）8月に宿毛湾周辺海域で釣または定置網によって漁獲されたイサキの耳石を表面から観察した結果、雌雄の成長差はなく、1歳で尾叉長15cm程度、2歳で22cm程度、3歳で25、26cmに成長すると推定されています（明神2002）。イサキの耳石は、年を経るごとに、長さを増す方向よりも厚みを増す方向に成長しますので、高齢魚ほど年齢査定は困難になります。そこで、Doiuchi *et al.* (2007) は、紀伊半島南西岸産のイサキについて、表面法と比べより正確な査定が可能とされている横断面法（耳石の短軸方向の薄片を作成して輪紋を計数します）によって成長を検討しました。その結果、雌雄に成長差はなく、図1のように成長しました。また、観察された

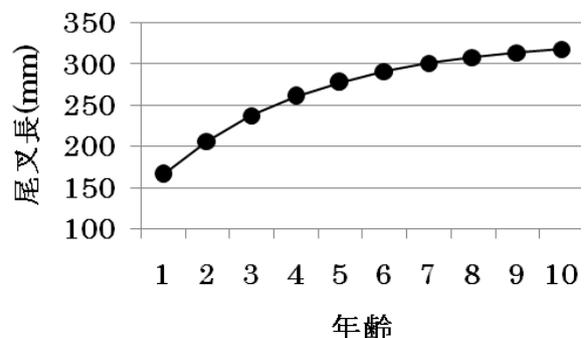


図1 紀伊半島南西岸産のイサキの年齢と成長 Doiuchi *et al.* (2007) から作成。

最大の年齢は 21 歳で、従来の年齢査定方法（表面法）に比べ、成長は遅く寿命は長いことが明らかになりました。ほぼ同様の結果は、豊後水道においても得られています（山田他 2007）。

成熟、産卵

生殖腺重量と魚体の大きさから算出された生殖腺指数の経月変化から、本県海域でのイサキの産卵期は 5～7 月で、その盛期は 6 月と推測されています。また、近年、紀伊半島南西岸海域のイサキの生殖腺の組織学的観察が行われ、成熟開始年齢は、雌が 2 歳、雄は 1 歳、そして、産卵期は 5～8 月（盛期は 6 月）であると考えられています（土居内他 2009）。

県内の漁獲動向

高知農林水産統計年報によると、高知県全体のイサキの漁獲量（属人）は、平成 3 年（1991 年）に 600 トンを超えましたが、その後、増減を繰り返しながら減少し、平成 19 年（2007 年）以降は 200 トン前後で低迷しています（図 2）。大型定置網の漁獲量が 100～200 トンで安定して推移しているのに対し、その他の釣は徐々に減少し、平成 18 年（2006 年）以降は 100 トンを下回りました。

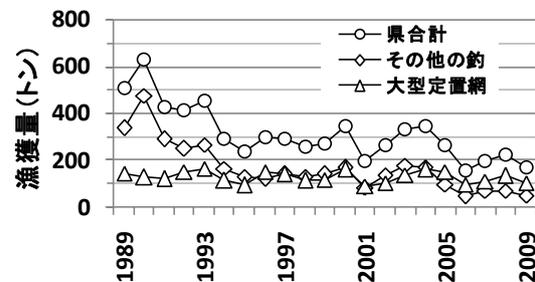


図 2 高知県のイサキ漁獲量の推移（高知農林水産統計年報）。

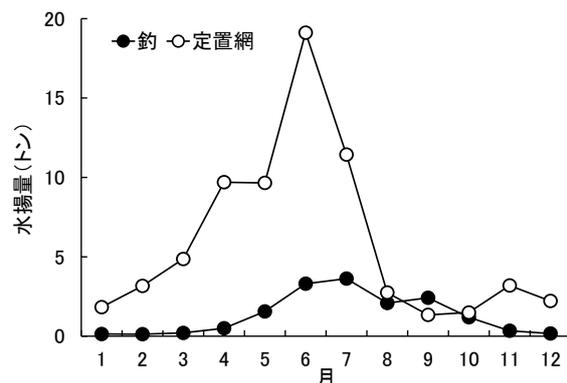
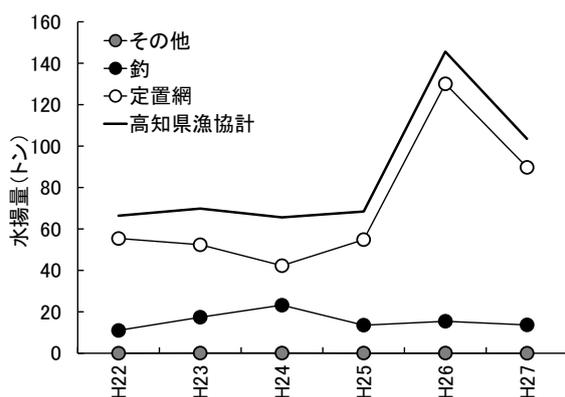


図 3 高知県漁協に水揚されたイサキの漁業種別水揚量の推移（左：年別推移、右：平成 22～27 年の月別平均値の推移）。

平成 22 年（2010 年）以降のイサキ水揚は主要漁場である宿毛湾を除いた高知県漁協の情報に限られています。それによると、水揚量は芸東地区の定置網を中心に 60

トン前後で推移していましたが（図 3 左）、平成 26、27 年は 100 トン台に回復しています。月別の水揚量を見ると、最近の漁期は定置網が 4～7 月、釣が 5～10 月です（図 3 右）。

なお、資源状態については、市場外での流通量が無視できないほど大きく、信頼できる漁獲統計値が得られませんので、不明です。